

**【パブリックコメント】**  
**浜田城周辺整備基本方針(城山公園整備)(案)**  
**に対する意見と浜田市の考え方**

人数	意見	ご意見の概要	浜田市の考え方
1	1	基本方針案は、名称を「浜田城周辺整備(城山公園整備)」としているが、その内容には関連する資料館建設や連絡道路造成が盛り込まれており、市民に誤解を与える恐れがあるため、城山公園整備以外の情報は、削除すべきである。	今回の(案)は、城山公園整備についてまとめていますが、(仮称)浜田歴史神楽資料館も既に議論になっていることを踏まえ、今後、別途、時間をかけて検討していくことに触れたものです。 また、進入路については、城山公園の玄関口としての動線、駐車場の確保、生活道路としての活用などを考えて、公園整備の中で整理しています。
	2	浜田城址を公園化することは理解できるが、廃墟化しつつある現況を虚飾してまでも、きらびやかなものとする必要はない。なぜなら、遺跡はその場でこれまでを表現するからこそ歴史的価値があるので、現在の址や環境をできうる限り保全しての整備こそ大切だと考える。	城山公園の整備に当たっては、史跡を保存し、活用することを基本的な考え方としています。今回の計画では、貴重な史跡である中ノ門への動線を新たに整備するほかは、既存の道を歩きやすく整備する計画です。
	3	城跡の位置から考えると、今後発生が予測される巨大地震による津波、異常降雨による洪水、大型低気圧と異常潮位が重なった高潮流入等の避難場所を兼ね備えた整備こそ、防御と備蓄という城本来の役目であり、住民のためになると思われる。	万一、災害が発生した場合を考え、城山の中腹に一時避難できるルートを複数確保しておくことが重要で、その視点を持って整備に取り組む考えです。
	4	歴史は、風土や地形、偉人や遺物が大切で、その地でこそ価値が味わえる。他地域に移動して、ひとまとめにしての歴史展示は、その地域の歴史を損ない閉ざすことにもなりかねない。	施設整備についてのご意見であり、今後の参考にさせていただきます。
	5	観光の本質は、移動を伴う見物であり、移動間の次への期待感が魅力でもあるから、浜田中心部のみ資金を注ぐのではなく、周辺部の遺構も見直し整備することが、まちづくりや商工業の発展や観光人口の拡大に結びつき、全市として「元気な浜田」を生み出すことになる。	市内の各地に様々な遺構があり、それぞれを結びつけて散策・観光ルートづくりに取り組む視点は大切で、方針(案)の基本的な考え方の中にも示しています。城山周辺整備を契機として、少しずつ取組を進めていきます。

2	6	<p>城山整備は、極力、現状を維持する必要がある一方、高齢者や障がい者に優しい動線を整備する必要があるとも考える。そこで、最短動線の整備について、簡易モノレールで上げられるようにして、護国神社に停車し、最終は浜田城跡まで伸びる移動手段を提案する。</p>	<p>高齢者や障がい者に優しい動線を確保する視点は大切ですが、城山整備は、文化財や自然公園の規制があり、極力、史跡、自然、景観を維持する必要がありますので、現段階では簡易モノレールの整備は困難と考えています。</p>
3	7	<p>松江城は天守閣があることで、観光客誘致に成功している。浜田城も城跡だけでは、観光客誘致にどうかと思う。見晴らしがよい場所なので、天守閣の設置を考えてほしい。</p>	<p>城山公園の整備に当たっては、史跡を保存し、活用することを基本的な考え方としています。天守閣の設置については、現在、復元の根拠となる図面などの資料がなく復元は困難な状況にあり、また、多大な経費と時間を要すると推察されることから公園整備事業で取り組む計画はありませんが、本丸からの眺望の確保には努めたいと考えています。</p>
4	8	<p>浜田城周辺整備のねらいや基本的な考え方に明確な目的を設定することを求める。浜田市のアイデンティティを覚醒させる象徴的な事業として位置付け、趣旨を理解した上での事業展開が住民や職員の本気度を高める。</p> <p>浜田は幕末、武士団の敗走により国としての形が崩壊し、略奪など法治秩序の混乱をきたした。その混乱した精神基層の上に住民意識が形成されている。住民意識の分散から集中へ、合併後の新しいまちづくりの象徴として、この整備がなされることに意味がある。</p> <p>具体的な取組として、浜田城の様々に改修された現状を旧態に戻すことから始めればよい。現在、各地で進められている城郭の復元は、元の状態に戻す本物志向となっている。本物でなければ人は寄って来ない。浜田のシンボルとして重要性を認識し、計画に活かしてほしい。</p>	<p>基本方針（案）の1ページに、「歴史文化の保存と継承」や、「学習・憩いの場」、「教育・観光・交流の拠点」となることを、ねらいとして示しています。</p> <p>現在、城郭の復元は考えていませんが、石垣等の遺構の復元については、平成31年以降も発掘調査など研究を続け、検証を行い、国指定史跡を目指す考えであり、その後、必要な整備に少しずつ取り組みたいと考えています。</p>
5	9	<p>城山整備計画は、平成29年度消費税アップが計画されている中、一段と市民の負担が多くなり、反対である。開府400年の一環として行うのであれば、他の藩（市）はどのような行事を行うか調査してからでも遅</p>	<p>開府400年の記念行事は、県内では松江市が5年間にわたってイベントや事業を実施し、松江歴史館を開館されました。また、新潟県上越市、岡山県津山市、愛媛県宇和島市などでも「開府400年」を記念した取組</p>

	くない。	<p>が実施されています。一方、津和野藩は既に開府 400 年が到来しましたが、特別なイベントは行っていないなど、市町村によって様々です。</p> <p>浜田開府 400 年に当たっては、財政計画を勘案しながら、この機会にこれまで整備が進まなかった城山を市民に愛される公園として再生したいと考えています。</p>
10	現在の浜田市の中には津和野藩の領地であったところもたくさんある。当時の藩の大半を占める農民の生活も苦しく、また、当時の五人組の組織の規律が厳しかった幕藩体制は、開府 400 年の行事として盛大に行う必要はない。	<p>400 年前に浜田藩が置かれ、伊勢松坂藩から多くの人に移り住みました。浜田の町に賑わいが生まれ、近接する津和野藩とも経済的なつながりが発生してきたと考えられます。</p> <p>こうした経緯から、浜田開府 400 年は、現在の浜田を構成する浜田藩、津和野藩がひとつになって新たなまちづくりを進める契機にしたいと考えています。</p>
11	城山を整備して年間に何人が訪れるか。将来性のない、負の遺産となりやすいものを整備する必要はない。一旦整備すると毎年維持管理費が必要となる。	<p>城山公園は、史跡公園として、また自然公園として大切にすべき場所ですが、現在、十分な整備ができていないことが訪問しにくい現状につながっています。学校関係者からは、整備されれば活用したいという多くの声が届いています。維持管理については、市民と協働で環境保全に取り組むなど、市民の森としてみんなで大切にする機運を醸成し、できるだけ経費をかけずに公園を維持していく方法も検討していきます。</p>
12	浜田歴史神楽資料館については、多目的ホールを学習交流の場としているが、収容人数が記載されておらず、全体像をぼかしているため把握できず、作る必要はない。	<p>施設整備についてのご意見であり、今後の参考にさせていただきます。</p>
13	平成 24 年当時に浜田市全体の神楽協議会や識者が集まった神楽伝承館検討会議は、市議会に「神楽館整備は単体での新たな施設を作らない。」「施設の規模、整備時期については中期財政計画の整合性を図りながら慎重に検討を行う。」と報告していたが、これとの整合性はどうか。たくさんの施設を作っても赤字経営になるばかりである。	<p>施設整備についてのご意見であり、今後の参考にさせていただきます。</p> <p>なお、平成 24 年に実施した石見神楽伝承施設検討事業では、「石見神楽伝承施設は整備することが望ましい」とされ、設置に当たっては、複合施設を念頭に改めて審議の場を設けることとされています。開府 400 年を機会に、今後、その議論を深めたいと考えています。</p>

6	14	従来の歴史的価値のある場所の公園整備でありがちな案内板や解説の設置だけでは、市民の興味をひくこと(特に歴史に興味のない人たちに対して)は無理だと思う。そこで、最近注目を集めているAR(拡張現実)技術を使って、浜田城址に実際に足を運び、その他でタブレットやスマホをかざすことで、当時の様子が体験できる仕組みをつくってはどうか。	城山公園は、一般的な公園のように憩いの場であるだけでなく、文化財でもあります。様々な遺構について来園者に興味を持っていただけるよう、公園の魅力づくりの参考にさせていただきます。
7	15	浜田城周辺とあるが、浜田城だけでなく、堀跡、武家屋敷跡、廻船の湊としての痕跡(日和山、松原浦及び外ノ浦の廻船問屋の建物等)も含めたらどうか。	浜田城周辺整備に当たっては、関連の深い周辺の地域資源を結び付けて、物語性のある散策・観光ルートづくりを進めていくこととしていますので、参考にさせていただきます。
	16	古田家、松平周防守家、松平右近将監家と関わりのある地域との連携及び情報交換をする必要があるのではないか。	浜田藩主家に関わりのある地域との連携については、これまでも機会あるごとに官民において連携、情報交換を行ってきたところです。浜田開府400年を機に、改めて連携を深めてまいります。
	17	中ノ門からの登り口の整備が必要である。	中ノ門から浜田護国神社へのルートについては、史跡として重要な場所であることから整備計画に掲載しています。
	18	「近代に入り、新たに手が加えられた箇所を検証」とあるが、検証後はどうするか。 忠魂碑(明治36年)跡はどうするか(雪洞型の灯籠を含む。) また、言及されていない現代に入り新たに手が加えられた箇所(失業対策事業で昭和28年頃～昭和38年頃まで行われた石垣を補修したと言われる箇所)の対応はどうするか。絵図による復元を考えているか。	近代以降の浜田城跡の経緯については、今後も、発掘調査による丁寧な調査や確認が必要です。 検証の結果を踏まえて、築城当時の姿にどこまで復元するのか整理したいと考えています。 今回の整備では、新たに手が加えられた箇所の復元まで実施できる段階にありませんが、築城当時の姿を明らかにして、CGなど何らかの形で伝えていくことは必要と考えています。
	19	市長は、以前の市長のように「文化財審議会」に出席して、文化財の調査研究、審議・保存及び活用方法等の実態を直接、見聞する必要があるのではないか。	浜田市文化財審議会は教育委員会に附属機関として設置され、教育委員会の諮問や意見具申のための審議を行っています。 教育委員会では、必要な事項等について、市長に協議や報告をしています。
8	20	「城山は照葉樹林が市街地において江戸時代のまま今日まで残された」とあるが、「浜田市誌」や「写真	市民に愛される公園となるよう、植栽も含め城山公園の整備に取り組みます。また、整備後についても、

		<p>集はまだ」を見ると人為的かく乱を受けた松や落葉樹との混交林で現在とは違った風景だと思う。城山が市民の財産でありながら、今まで十分な調査や整備がなされてこなかったことは残念であり、これを機会に市民に親しみやすい場として改善されるようお願いしたい。公園の機能の向上として、草花類の植栽やサクラの樹勢回復も来園者の増加につながる。</p> <p>江戸時代は園芸の盛んな時代でもあり、各藩も江戸の文化の影響を受けているので、埋蔵文化財の調査と並行して検討してほしい。</p>	<p>引き続き発掘調査など研究を進めていきます。</p>
	21	<p>歴史神楽資料館については、財政上の不安を考えれば既存の施設の利用が妥当かと思うが、井野神楽や有福神楽は無形民俗文化財に指定されていることもあり、技能継承の支援は必要であると思う。観光面でも石見神楽の情報は内外に向けて更に発信すべきである。</p>	<p>施設整備についてのご意見であり、今後の参考にさせていただきます。</p>
	22	<p>施設の整備だけでなく、企画運営していく人材やボランティアの育成、年間予算の確保など、浜田市の身の丈に合った計画であること、市民のコンセンサスを得ることが大切である。</p>	<p>施設整備についてのご意見であり、今後の参考にさせていただきます。</p>
9	23	<p>浜田の歴史と自然に触れる場所として、観光のみならず、市民が集える場となることを望む。そのために、浜田駅からのアクセスとして、ウォーキングとサイクリングが楽しめる専用道（または専用ゾーン）を整備してほしいと思う。田町から浜田川沿いであれば、さほど工事費をかけずに整備できるのではないかな。併せて、貸自転車の整備も検討してほしい。観光客の足にもなり、周辺の商店街へも効果が波及するのではないかな。また、平日は学生に貸し出すなど、交通弱者の足としても使えると思う。</p>	<p>城山公園の史跡や自然の活用については、民間の方も交えていろいろなアイデアを出していくことが大切ですので、頂いたご意見を参考にさせていただきます。</p>
10	24	<p>歴史と文化を継承及び伝承して行く事の大切さは十分に理解できるが、観光・交流の拠点として捉える</p>	<p>この事業は、城山公園を「歴史文化に触れる場」・「自然散策や健康づくりの場」・「ふるさと郷育の場」と</p>

		<p>意図がくみ取れない。具体的な手法が明示されておらず「費用対効果」はどうか。この計画による観光客の導入がどの程度期待できるかさっぱり見えない。市の実質負担金を強調されている感がするが、費用は全て税金である。この計画に伴う集客を謳うのであれば具体的な方策を示すべきである。</p>	<p>しての活用を念頭に置いています。そして、ここを拠点として、市民や観光客が市内を周遊する仕掛けとして「物語性を持たせた散策・観光ルートづくり」等に取り組みたい考えです。</p> <p>費用対効果は、観光面だけでなく、歴史文化面も考えての事業のため数値化が難しいことはありますが、教育文化にも資するものと考えています。</p>
	25	<p>浜田歴史神楽資料館なる「箱物」の計画があるようだが、具体的な集客コンセプト及びランニングコストを提示することが肝要である。文化を伝承していくのに絶対的に必要な事業か。市民が絶対的に必要と考える事業か、計画を推進するための関係者だけの意見によるものか、検証が必要である。結果的に完成後のランニングコストが市政を圧迫する有無はどうか明言できるのだろうか。</p>	<p>(仮称) 浜田歴史神楽資料館の整備は、今後検討していくこととしています。その際、コンセプト、事業費、ランニングコストを示し、多くの市民の意見を聴く場を設ける考えです。</p>
	26	<p>行政における「費用対効果」の意味合いは「税収が上がるか否か」ではないか。それすら示されない事業は、計画ありきの単なる市長の名誉を得る為のような気がする。市民の意見を求められるのは結構だが、計画に対する意見だけでなく「計画の可否」についても判断ができるように提示する必要がある。</p>	<p>城山公園整備は、観光客の訪問を期待するものではありませんが、ふるさと郷育や健康づくりの視点からも大切な事業と考えています。その効果は税収の伸びだけで判断しかねる事業ですが、何らかの検証の仕方を研究したいと思います。計画の可否についての項目の提示は、施設整備についてのパブリックコメントを行う際に参考にさせていただきます。</p>
11	27	<p>P1 整備のねらい③において、「市内に人の流れを生み出す」としているが、車で訪れた客が、市中心部の街歩きに流れるようにはあまり思えない。浜田城・アクアス・お魚センターと車で訪問しやすい箇所だけに訪れることのないような仕掛けづくりやプランが必要になってくるのではないか。</p>	<p>浜田市を訪れる人の多くは、自家用車を利用されています。そのため駐車場を整備することとしています。また、市内を周回していただくようなコースづくり、ソフト事業が必要と考えています。市内に点在する他の史跡や、近隣の商店街などと連携して検討していきます。</p>
	28	<p>P1 整備のねらいにおいて示されている図では、連携や観光の例として示されている地点がどれも浜田城から離れた地点にある。自家用車を持たない観光客にも対応することを考えた方がいいのではないか。</p>	<p>この図は、地元の「食・遊・泊」施設との連携イメージであり、具体的なアクセス方法の整備は今後の検討課題です。</p>

29	<p>P1 整備の基本的な考え方③ふるさと郷育において、児童・生徒以外も含め多くの市民が地元の歴史を学ぶ機会を提供していくべきである。意外と長く住んでいたとしても知らないことは多いと考えられる。</p>	<p>児童生徒のみではなく、社会人や高齢者も含めた市民の皆さんのふるさと郷育の場として活用したいと考えています。</p>
30	<p>P1 整備の基本的な考え方③ふるさと郷育において、地元で生まれ、育った子どもたちの郷土愛につながるよう、内容を体系化した上で、浜田の歴史や浜田城について組み込んでいく必要がある。</p>	<p>浜田城周辺の整備が進めば活用したいという教育現場の声もありますので、連携してふるさと郷育を推進したいと考えています。</p>
31	<p>P1 基本的な考え方④(1)地元商店街との連携において、まち歩きをどう誘発するかに加え、浜田に滞在する間にどうお金を使ってもらおうかについても考えないといけない。</p>	<p>整備内容を決定した上で、観光コースやソフト事業、来訪者のおもてなしなど、地元商店街などと連携して、検討していきます。</p>
32	<p>P1 基本的な考え方④(2)公共交通網の整備について、平成27年度に島根県立大学が調査した結果によると、広島方面からは約9.5割の方が車で浜田に来ているという結果が出ている。このことから、観光地間のアクセスに路線バス等の路線を設定することは需要と供給のバランスから難しいと考えられる【浜田市地域公共交通再編計画/P46参照】。このことから、観光タクシー等の提供についても検討していく必要があると考えられる。</p>	<p>観光タクシー利用のご提案は参考にさせていただきます。</p>
33	<p>P2 現況評価の問題点について、駐車場・トイレがないことが課題とされているが、駐車場はやたらめったら作ればよいものではない。ドアtoドアにしてしまえば、観光客は歩かない。トイレは観光地には必須なので、環境に配慮し、適切な整備が必要だと考えられる。</p>	<p>駐車場の確保は、施設に応じた適正規模の検討が必要です。トイレ整備が必要というご意見は参考にさせていただきます。</p>
34	<p>P4 サポート活動の人材育成において、案内ガイドの養成は必要であると考えられる。しかし、松江城などに代表される大観光地となることや年間を通じて多くの観光客が訪問するとはあまり考えられない面があるため、どういった形で運営をしていくのか、体制を考えていく必要があると思われる。</p>	<p>現在も、浜田市観光ボランティアガイドの会によるガイドが実施されています。今後、そうした城山に関わる様々な団体と連携して、人材の育成も検討していきます。</p>

35	<p>P10 整備事業費において、市の実質負担は、95百万円であり、あまり多くないのかもしれないが、その他補助も税金であり、どこかで国民または市民が負担しているものである。そこまでの整備が本当に必要であるか、また市民がどこまで整備を望んでいるのかについては慎重に見極めないといけない。また、調査等によって経費が膨らむ可能性も否定できないため、様々な可能性を勘案しないとイケないと考えられる。</p>	<p>公共施設は基本的には公金が投入されるものですので、できる限り費用を抑えるよう努力します。また、整備に当たっては広くご意見を伺いながら、慎重に進めていきます。</p>
36	<p>P11 公衆トイレの整備については、ある程度のニーズがあると予想できるため、前倒し実施を行ってもいいのではないかと考えられる。</p>	<p>トイレの設置に関するご意見は参考にさせていただきます。</p>
37	<p>【全体を通じて】平成27年度に島根県立大学が調査した結果によると、広島方面からの来訪者に歴史文化や石見神楽などの伝統芸能の認知や訪問、体験の希望はあまり高くないということが分かる。しかしながら、一度訪問し、見る・体験した人の満足度は高いという結果も出ており、どうやって再訪を促すか・新たな方に訪れてもらうかという課題もある。現時点において、浜田において歴史・文化に触れる施設は多くないため、観光施設としてまた歴史文化を発信する拠点施設として有効に機能するよう計画を実行していく必要がある。</p>	<p>城を中心とした歴史探訪は近年高まっていて、浜田の教育・観光・交流の拠点として、多くの人に訪問していただけるような公園を目指します。また、施設整備は、今後、いろいろなご意見を聴きながら方針（案）をまとめたいと考えています。</p>
38	<p>【全体を通じて】計画中、何か所かにおいて、「市民との協働」が記載されているが、どのような相手を想定しての記載が具体性に欠けているように感じる。本計画で記載することは難しいかもしれないが、別な形でどのような形で協働や市民参加を促すかを検討しておくべきである。</p>	<p>城山では、以前から様々なボランティア団体、NPO、地元を中心とした市民の方が活動されています。そうした皆さんや、近隣の商店街なども連携しながら、保護・保全活動や観光資源の創出など、検討していきます。</p>